

納豆向けのわら作り

常陸太田 大学生ら「おだ掛け」



本県名産の「わらづと納豆」に使うわらを作ろうと、茨城大と常磐大の学生ら

が、常陸太田市折橋町の水田で稲穂を天日干しする「おだ掛け」をした。

おだ掛けする大学生＝常陸太田市折橋町

活動は就職活動中や就職後に役立つ力を身に付けるべく、茨城大人文学部が学外と連携し常磐大、茨城キリスト教大の協力を得て取り組んでいる授業の一環。同市里美地区では、地域おこしを目指し、2012年から住民とともに特産の「里川カボチャ」を使った商品開発などを進めている。

度新たに始まった試み。学生たちは地元農家の手助けを受けながら、これまで水田の除草作業などに当たってきた。この日はあいにくの雨模様。参加した学生5人はぬかるむ田んぼに足を取られつつ、農家が稲刈り機で刈り取った稲を、一束ずつ丁寧に竹のさおに掛けていった。

今後は出荷に向けて農家や納豆メーカーと調整していく。茨城大3年の大枝俊貴さん(20)は「これをきっかけに、(納豆の)わらが足りないということを多くの人に知ってもらえれば」と話した。(長洲光司)